

# 報 雜

## ◎人 事

任陸軍軍醫少尉 中野文郎

(四月十五日)

市村丑雄

衛生技師に任ず

高等官七等を以て待遇せらる

(四月十五日)

衛生技師 市村丑雄

岡山縣衛生技師に補す

(四月十五日)

臺北帝國大學教授兼臺北帝國  
大學附屬醫學專門部教授臺北  
帝國大學學生主事

横川 定

免兼臺北帝國大學學生主事

(四月二十一日)

衛生技師 市村丑雄

五級俸下賜

(四月十五日)

從六位 田淵義三郎

敘勳六等授瑞寶章

(四月十三日)

岡山醫科大學助教授 中井良平

本俸六級俸下賜

(五月一日)

敘從六位

正七位 田淵義三郎

(一月十六日)

岡山醫科大學助教授 杉 佐 助

依願免本官

(五月三日)

保健技師 多田隈健雄

三級俸下賜

(五月十九日)

○木村敏三君 は今般廣島縣庄原町庄原病院に勤務せられたり

○青山勉君 豫て岡山醫科大學石山外科に勤務し居られし同君は今般萩市松野病院に轉勤せられたり

○中島達二君 豫て滿洲國滿鐵教化醫院に勤務し居られし同君は今般哈爾濱市滿鐵醫院内科醫長に榮轉せられたり

○蜂谷道彦君 岡山醫科大學稲田内科に勤務中の同君は今般廣島市通信診療所長に就任せられたり

○磯野隣夫君 豫て防府市中央病院産婦人科醫長として勤務し居られしが今般其の職を辭し香川縣觀音寺町に於て開業せられたり

小林英輔君 君は大正元年岡山醫學專門學校を卒業し陸軍に出仕し軍醫少佐に進み退役後は本縣眞庭郡神庭村に開業し居られしが支那事變起るや應召し北支に於て勇戦中なりしが本月9日北京前田部隊にて名譽の戦病死せられたりと寔に痛惜に堪へず謹みて茲に哀悼の意を表す

多田隈健雄君 岡山刑務所に奉職し傍ら岡山醫科大學法醫學教室に於て研究中なりし同君は急病にて本月19日遠逝せられたりと寔に痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す

倉内嘉也君 大正5年岡山醫學專門學校を卒業し陸軍に出仕し果進し陸軍軍醫大尉となり昭和2年豫備役となり岡山縣英田郡に於て開業し日支事變起るや勇躍應召し前線に活動中戦傷を受けて加療全治後再び第1線にて奮闘し復た戦傷を受け〇〇野戦病院にて加療中遂に去る24日戦病死せられたり寔に痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す

河野稻太郎君逝く 君は明治31年第三高等學校醫學部を卒業し直ちに同學部病理學教室に入り研究し後津山市に於て開業し今日に至りしが昨年より病魔に犯され静養に力められしも醫藥其の效を奏せず去28日遂に永眠せられたりと寔に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

◎學位授與

次記諸君は豫て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが割註の如く孰れも醫學博士の學位を授與せられたり尙ほ其の主論文及び參考論文は次の如し

氏名	教授會通過月日	學位授與月日
飛谷忠弘	本年3月20日	本年5月3日
大野勤次郎	"	"
井爪昌和	本年4月10日	本年5月26日
徳毛卓三	"	"
小泉道徳	"	"
岡村好幸	本年5月1日	"
宮木輝夫	"	"

飛谷忠弘君

主論文

南天ノ「アルカロイド」「ナンディニン」

(Nandinin)ノ藥理學研究

第1報告 抽出精製、一般作用毒性、骨格筋、運動神經竝に知覺神經ニ對スル作用(本誌第49年第7號ニ發表ス)

第2報告 循環器系統竝に呼吸ニ及ボス影響(本誌第49年第8號ニ發表ス)

第3報告 滑平筋臟器ニ對スル作用(本誌第49年第10號ニ發表ス)

第4報告 尿分泌、體溫竝に血液像ニ及ボス影響(本誌第50年第7號ニ發表ス)

參考論文

1. 「ブルボカプニン」(Bulbocapnin)ト南天

ノ「アルカロイド」「ドメスティチン」(Domesticin)トノ藥理學的的作用比較研究(追テ本誌ニ發表ノ豫定)

2. 「ヂフェニールグアニジン」(Diphenylguanidin)ノ藥理學的研究

第1報告 一般作用毒性、血壓、蛙剔出心臟、家兎剔出小腸竝に子宮、家兎生體小腸竝に血液凝固ニ及ボス影響(本誌第51年第4號ニ發表セリ)

3. 「ヂフェニールグアニジン」(Diphenylguanidin)ノ藥理學的研究

第2報告 家兎血糖竝に體溫ニ及ボス影響(追テ本誌ニ發表ノ豫定)

4. 「カンファー」ノ血糖作用知見補遺(岡山醫科大學歐文業第6卷第2號ニ發表セリ)

大野勤次郎君

主論文

口蓋扁桃腺内ニ於ケル「ヂフテリ菌」ニ就テノ研究(大日本耳鼻咽喉科會報第45卷第4號ニ發表ノ豫定)

參考論文

1. 再ビ我が教室ニ於ケル耳性竇血栓ニ就テノ統計的觀察(高原滋夫、岡貞邦共著)(大日本耳鼻咽喉科會報第45卷第1號ニ發表ノ豫定)

2. 口蓋内被細胞腫ニ就テ(「グレンツゲビート」第12年第10號ニ發表ス)

3. 壓迫性橫竇血栓ノ2例(耳鼻咽喉科臨牀第32卷第5號ニ發表ス)

4. 比較的容易ニ摘出シ得タル大ナル扁桃腺肉腫ノ2例(小坂昭男共著)(耳鼻咽喉科臨牀第31卷第3號ニ發表ス)

井爪昌和君

主論文

急性氣管枝閉塞性肺虛脱ノ細菌感染ニ關スル實

驗の研究

- 其ノ1. 急性虚脱肺ノ生體色素攝取竝ニ細菌沈着ニ就テ(昭和14年5月日本外科學會雜誌ニ發表ノ豫定)
- 其ノ2. 急性虚脱肺ノ肺炎双球菌ニ對スル抵抗(昭和14年6月日本外科學會雜誌ニ發表ノ豫定)
- 其ノ3. 急性虚脱肺ノ黃色葡萄球菌ニ屬スル抵抗(昭和14年7月日本外科學會雜誌ニ發表ノ豫定)
- 其ノ4. 急性虚脱肺ノ牛型結核菌ニ對スル抵抗(昭和14年8月日本外科學會雜誌ニ發表ノ豫定)

參考論文

1. 咯痰ニ依ル氣管枝閉塞性急性肺虚脱ニ關スル實驗的研究(昭和14年9月日本外科學會雜誌ニ發表ノ豫定)
2. 肋膜腔内壓曲線分析ニ關スル研究(東京醫事新誌第30596號ニ發表ス)
3. 再ビ術後急性充實性肺虚脱ノ症例追加(東京醫事新誌第2998號ニ發表ス)
4. 脊髓症狀ヲ伴ヘル76歳ノ高齢者ニ見タル頸椎「カリウス」ニ就テ(日本整形外科學會雜誌第10卷第4號ニ發表ス)
5. 椎弓切除術ニヨル小兒脊髓麻痺治驗例(本誌第46年第6號ニ發表ス)
6. 肋膜腔内異物ノ1例(本誌第45年第10號ニ發表ス)
7. 鉋傾性トライツ氏「ヘルニア」ノ1例(東京醫事新誌第3032號ニ發表ス)
3. 我ガ教室ニ於ケル小兒脊髓麻痺ノ手術遠隔成績(東京醫事新誌第2916號ニ發表ス)

德毛卓三君

主論文

肺循環竝ニ血液瓦斯ヨリ見タル肺臟機能ニ關スル研究

- 其ノ1. 肺流血量測定ニ關スル余ノ實驗方法竝ニ正常肺左右流血量ニ關スル實驗的研究(昭和14年7月日本外科學會雜誌ニ發表ノ豫定)
- 其ノ2. 虚脱肺流血量ノ時間的消長ニ關スル實驗的研究(昭和14年8月日本外科學會雜誌ニ發表ノ豫定)
- 其ノ3. 氣管内閉鎖異物除去後ノ肺臟治癒機轉ニ就テ(昭和14年9月日本外科學會雜誌ニ發表ノ豫定)
- 其ノ4. 1側閉塞性肺虚脱急救處置トシテ人工氣胸療法(昭和14年10月日本外科學會雜誌ニ發表ノ豫定)
- 其ノ5. 各種氣胸ノ血液瓦斯ニ及ボス影響(左右別及ビ注入瓦斯量別)(昭和14年10月日本外科學會雜誌ニ發表ノ豫定)

參考論文

1. 胸腔内遊離肋膜石灰板ニ就テ(東京醫事新誌第2995號ニ發表ス)
2. 蟲様突起軸輪轉症ノ例ニ就テ(東京醫事新誌第2996號ニ發表ス)
3. 副腎移植後5箇年ヲ經過セシアヂソン氏病ノ治驗例(東京醫事新誌第2913號ニ發表セリ)
4. 人生體ヨリ摘出セル「トロトラスト」攝取肝及ビ脾臟ノ組織學的檢索(東京醫事新誌第2957號ニ發表セリ)
5. 拵入口癒着ニ依ル自然治癒セル腸管重積症(東京醫事新誌第2957號ニ發表セリ)
6. 開腹術後ノ早期起床ニ就テ(日本臨牀外科學會雜誌第2回第2號ニ發表セリ)
7. 胸脊髄液過剰流失ノ危険ト其ノ處置(日本臨牀外科學會雜誌第2回第3號ニ發表セリ)
8. 痰癥後處置ニ就テ(日本臨牀外科學會雜誌第2回第3號ニ發表セリ)
9. 綿紗代用品トシテ「ウールペーパー」竝ニ金網ノ應用(治療及ビ處方第191號ニ發表セリ)

小泉 道徳君

主論文

氣管粘膜ノ血清學的研究

其ノ1. 氣管粘膜纖毛上皮蛋白ノ特異性ニ就テ(本誌第47年第7號ニ發表セリ)

其ノ2. 氣管粘膜ニヨル同種竝ニ自家抗體產生ニ就テ(本誌第47年第8號ニ發表セリ)

其ノ3. 氣管粘膜ノ局所免疫ニ就テ(本誌第47年第9號ニ發表セリ)

參考論文

其ノ1. 血球竝ニ血清ニ及ボス「フォルマリン」ノ影響ニ就テ

第1報 赤血球ノ抵抗ニ及ボス「フォルマリン」ノ影響ニ就テ(本誌第47年第4號ニ發表セリ)

其ノ2. 同上

第2報 血球抗原性ニ及ボス「フォルマリン」ノ影響ニ就テ(本誌第47年第5號ニ發表セリ)

其ノ3. 同上

第3報 血清蛋白ニ及ボス「フォルマリン」ノ影響ニ就テ(本誌第47年第6號ニ發表セリ)

其ノ4. 妊婦尿「ホルモン」ノ吸着竝ニ生體內分離ニ關スル實驗補遺(産科ト婦人科第5巻第10號ニ發表セリ)

其ノ5. 卵管妊娠ノ稽留ヲ伴ヒシ正規妊娠例(産科ト婦人科第3巻第6號ニ發表セリ)

其ノ6. 父母ノ狀態竝ニ妊娠、分娩ノ經過ト乳兒發育トノ關係(京都醫學專門學校紀要第2巻第9號ニ發表セリ)

岡村 好幸君

主論文

唾液分泌機能ニ就テノ研究(本誌第51年第2號ニ發表セリ)

參考論文

1. 網膜ノ疲勞竝ニ其ノ恢復ノ研究追テ(本誌ニ發表ノ豫定)
2. 低壓ガ家兎耳朵血管ノ赤血球數ニ及ボス影響ニ就テノ研究(追テ本誌ニ發表ノ豫定)
3. 血管(模型)直徑ノ大小ニ依ル赤血球數ノ變化ニ就テノ實驗的研究(追テ本誌ニ發表ノ豫定)
4. 家兎血清ノ「カタホレーゼ」ニ就テノ研究(追テ本誌ニ發表ノ豫定)
5. 臟器「リポイド」ノ家兎血液凝固ニ及ボス影響ニ就テ(本誌第48年第7號ニ發表セリ)
6. 「コルヒチン」ノ酵母菌ノ分裂ニ關スル影響(追テ本誌ニ發表ノ豫定)
7. ワルトン氏管異物ノ1治驗例(本誌第48年第10號ニ發表セリ)
8. 杖創ニ依ル尿道全層斷裂ノ1治驗例(本誌第49年第2號ニ發表セリ)
9. 上膊骨脛上骨折ノ療法特ニ其ノ鋼線索引療法ニ就テ(日本外科實函第13巻第2號ニ發表セリ)

宮木 輝夫君

主論文

細菌傳染性竝ニ中毒性急性疾患ノ副腎含有「アスコルビン酸」ニ及ボス影響(實驗的研究)

1. 海狽急性化膿性汎發性腹膜炎ニ於ケル副腎含有「アスコルビン酸」ノ量ノ變化(本誌第50年第11號ニ發表セリ)
2. 海狽化膿性汎發性腹膜炎ニ於ケル副腎ノ病理組織學的變化(本誌第51年第1號ニ發表セリ)
3. 火傷ノ海狽副腎含有「アスコルビン酸」量ニ及ボス影響竝ニ其ノ病理組織學的變化(本誌第51年第1號ニ發表セリ)
4. 海狽脾液性急性腹膜炎ニ於ケル副腎含有「アスコルビン酸」量竝ニ其ノ病理組織學的變化(本誌第51年第1號ニ發表セリ)

參考論文

1. 丸腫瘍 = 就テ(本誌第 50 年第 5 號 = 發表セリ)
2. 精系 = 發生セシ混合腫瘍 = 其ノ腹部轉移腫瘍ノ 1 例(本誌第 50 年第 2 號 = 發表セリ)
3. 大眼筋肉組織 = 發生セル肉腫性纖維腫ノ 1 例(臨牀雜誌「外科」第 2 卷第 5 號 = 發表セリ)

◎岡山醫科大學臨時附屬醫學專門部學則

第 1 章 總 則

第 1 條 岡山醫科大學臨時附屬醫學專門部ハ醫學ニ關スル學術ヲ授クル所トス

第 2 條 修業年限ハ 4 年トス

第 2 章 學科課程

第 3 條 學科目及ビ其ノ每週教授時間數左ノ如シ但シ教授上特別ノ必要アルトキハ學科目又ハ其ノ時間數ノ配當ヲ變更シ或ハ教授定時間外若ハ休業期間ニ於テ臨時講演ヲ聽カシメ又ハ實習ヲ課スルコトアルベシ(學科課程及ビ教授時間數ハ略ス)

第 3 章 學年、學期及ビ休業(略ス)

第 4 章 入學及ビ在學

第 7 條 入學ハ學年ノ始メトス

第 8 條 本專門部ニ入學シ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ本部ノ銓衡ニ合格シタル者トス

1. 中學校卒業者
2. 專門學校入學檢定規程ニ依リ無試験檢定ノ指定ヲ受ケタル者
3. 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

第 9 條 入學志願者ノ數入學セシムベキ人員ニ超過シタルトキハ學業、身體及ビ人物性行等ニ付選抜試験ヲ行フ

選抜試験ノ方法ハ其ノ都度之ヲ定ム

第 10 條 入學志願者ハ入學志願者名票ニ卒業證書ノ寫(又ハ卒業見込證明書若ハ合格證書ノ寫)寫眞及ビ入學考査料金 5 圓ヲ添ヘ本專門部ニ提

出スベシ

第 11 條 入學ヲ許可セラレタル者ハ保證人連署ノ在學證書ニ戶籍謄本及ビ入學料金 3 圓ヲ添ヘ提出スベシ

第 12 條 第 2 學年以上ニ缺員アリタルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付銓衡ノ上入學ヲ許可スルコトアルベシ

1. 高等學校高等科卒業者及ビ大學豫科修了者
2. 第 8 條ニ該當スル者ニシテ前各學年修了程度ニ依リ行フ編入試験ニ合格シタル者

第 13 條 前條ノ入學ニ關シテハ第 7 條、第 10 條及ビ第 11 條ヲ準用ス

第 14 條 退學セシ者再入學ヲ願フトキハ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルベシ再入學ノ時期ハ第 7 條ニ依ルモノトス

第 15 條 一旦納付シタル入學考査料及ビ入學料ハ如何ナル理由アルモ之ヲ還付セズ

第 16 條 入學ヲ許可セラレタル者ハ直チニ住所ヲ届出ヅベシ

第 17 條 本人及ビ保證人ノ身分上ノ異動並ニ住所ノ變更アリタルトキハ直チニ届出ヅベシ

第 5 章 缺席、休學、退學及ビ轉學

第 18 條 缺席スル者ハ理由ヲ具シ届出ヅベシ缺席 7 日以上ニ互ルトキハ保證人連署ヲ以テ届出ヅベシ但シ病氣ノ場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スルヲ要ス

第 19 條 病氣又ハ己ムコトヲ得ザル事故ニ因リ 3 月以上修學スルコト能ハザル見込ノ者ニハ願ニ依リ當該學年間休學ヲ許可スルコトアルベシ但シ休學中ト雖モ復學ヲ願出デタルトキハ之ヲ許可スルコトアルベシ

第 20 條 陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服シ又ハ召集ニ應ズル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ間休學トス

第 21 條 退學セントスル者ハ其ノ理由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出デ許可ヲ受クベシ

第 22 條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ニ退學

ヲ命ズ

1. 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
2. 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
3. 2回繼續シテ落第シタル者
4. 引續キ1年以上缺席シタル者
5. 正當ノ事由ナクシテ引續キ1月以上缺席シタル者
6. 出席常ナラザル者

第23條 許可ヲ受クルニ非ザレバ他ノ學校ニ入學又ハ轉學ノ志願ヲ爲スコトヲ得ズ

#### 第6章 授 業 料

第24條 授業料ハ1學年金80圓トシ左ノ通納付セシム

第1學期 金30圓

第2學期 金30圓

第3學期 金20圓

納付期日ハ別ニ之ヲ定ム

第25條 既納ノ授業料ハ如何ナル理由アルモ還付セズ

第26條 授業料ヲ納付期間内ニ納付セザル者ハ登校ヲ禁止ス

第27條 缺席又ハ休學期間ト雖モ授業料ハ減免セズ但シ第20條ノ休學者ニハ其ノ期間月割ヲ以テ之ヲ免除ス

第28條 學費ノ支辨極メテ困難ナル生徒中成績優良ニシテ品行方正ナル者ニ對シ授業料ヲ減額又ハ免除スルコトアルベシ

第29條 退學者ト雖モ當該學期ノ授業料ハ之ヲ納付セシム

第30條 特別ノ理由アリテ成規ノ卒業成績考査ヲ受ケ得ズシテ追試験ヲ許サレタル者ノ授業料ハ之ヲ徴セズ

#### 第7章 賞 罰

第31條 學術性行優良ナル生徒ハ之ヲ表彰スルコトアルベシ

第32條 學則竝ニ諸規程ニ違背シタル者及ビ生徒ノ本分ニ悖ル行爲アリト認メタル者ハ其ノ輕重ニ從ヒ之ヲ懲戒ス

懲戒ハ之ヲ分チテ戒飭、停學及ビ放校トス

#### 第8章 試験、進級及ビ卒業

第33條 試験ハ學期試験及ビ卒業試験トス

第34條 學期試験ハ各學期ノ終ニ於テ當該學期中ニ履修シタル學科目ニ付之ヲ行フ

第35條 實習ハ擔任教官ノ意見ニヨリ試験ヲ施行セズシテ其ノ成績ヲ定ムルコトアルベシ

第36條 各學科目ノ學期成績ハ學期試験ノ成績、勤惰及ビ操行ヲ考査シテ之ヲ定ム

考査ノ方法竝ニ採點ノ標準ハ別ニ之ヲ定ム

第37條 學年成績ハ各學期成績ノ平均ニ依ル

第38條 學年成績所定ノ標準以上ノ者ニ限り進級セシム

第39條 所定ノ授業日數ノ3分ノ1以上授業ヲ受ケザル者ハ學年成績ノ如何ニ拘ラズ原級ニ止ム

第40條 疾病又ハ己ムヲ得ザル事由ニ因リ試験定日ニ缺席セントスル者ハ其ノ旨ヲ具シ保證人連署ノ上願出テ許可ヲ受クベシ但シ疾病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

第41條 前條ノ許可ヲ受ケ學期試験ニ缺席シタルモノニ對シテハ次學期ノ始メニ追試験ヲ行フコトアルベシ

第42條 卒業試験ハ第4學年ノ終ニ於テ左ノ學科目ニ關シ學説及ビ實地ニ付之ヲ行フ

內科學 外科學 整形外科學 産婦人科學 眼科學 耳鼻咽喉科學 皮膚科學 泌尿器科學 小兒科學 精神病學

第43條 卒業試験ニ缺席シタル者又ハ不合格トナリタル學科目アル爲卒業シ得ザル者ニ對シテハ詮議ノ上適宜日時ヲ定メ追試験ヲ行フコトアルベシ

第44條 學年成績所定標準以上ニシテ卒業試験ニ合格シタル者ニハ所定ノ卒業證書ヲ授與ス

第 45 條 本専門部卒業者へ岡山醫科大學附屬醫  
學専門部醫學士ト稱スルコトヲ得

附 則

本學則ハ昭和 14 年 5 月 日ヨリ之ヲ施行ス



◎本會創立 50 周年記念式

同會記念式は豫期の如く新緑濃き本月 7 日岡山  
醫科大學に於て執行せり其の概況は次の如し當日  
は雲多けれども雨の心配はなく會合には實に絶好  
の日和なりし

午前 9 時に至り先づ同學大講堂に於て物故本會  
員 699 君の慰靈祭を次の順序にて舉行す

イ. 祝主祝の詞を奏す

警蹕管絃, 一同起立敬禮

ロ. 大麻行事

ハ. 鹽湯行事

1. 齋主招魂 警蹕管絃, 一同起立敬禮

1. 献饌 奏 樂

1. 齋主祝詞を奏す 一同起立

1. 祭主弔祭の辭奉讀 (田村會長)一同起立

1. 祭主玉串奉奠 奏 樂

祭員之に做ふ

1. 遺族代表者 (菅 忠芳君) 玉串奉奠

1. 來賓代表者 (荒木寅三郎君) 玉串奉奠

1. 會員代表者 (藤原鐵太郎君) 玉串奉奠

1. 撤饌 奏 樂

1. 送魂 警蹕管絃

一同起立敬禮

次に祝賀式に移り(場所同上)

司會者 藤原副會長

1. 開會の辭 藤原副會長

1. 式辭 田村會長

1. 事業報告 清水主幹

1. 祝辭

文部大臣 荒木貞夫氏  
長岡半太郎氏

岡山縣醫師會長 藤原鐵太郎氏

岡山市醫師會長 廣瀬耕一氏

祝電披露 大西英男氏

次で表彰式に移り本會に功勞ありし次の諸君を  
表彰し表彰狀及び記念品を呈す

桂田富士郎 田中文男 藤田秀太郎

田村於兔 藤原鐵太郎 安藤兼一

齋藤精一郎 皆見省吾 生沼曹六

稻田進 畑文平 好本節

麻植亙一 赤澤乾一 掛谷令三

松田金十郎 小野義彦 大西英男

右の式を終りて藤原副會長閉會の辭を述べ午前  
11 時より第 1 講堂に於て本會記念會特別講演を  
開始す

1. 回顧談 荒木寅三郎先生  
終て記念撮影(生化學教室玄関前に於て)

休憩 晝食 (大講堂に於て)

午後 1 時より第 1 講堂に於て

2. 日本文化史より見たる我が醫學  
藤浪剛一先生

午後 2 時 40 分より第 1 講堂に於て

3. 毎回食完叢說 佐伯矩先生  
右特別講演場は満場立銀の餘地も無き盛況なり  
き。

右特別講演を終り午後 6 時より後樂園鶴鳴館に  
於て懇親會を開く出席者百餘名にして互に舊を談  
し新を語り嚙々裡に午後 9 時散會せり

當日は東は東京方面, 西は九州, 南は高知, 北  
は島根方面よりの會員來會せられ互に一別以來の  
久瀾の美はしき辭令の交換あり相共に手を執り學  
内, 國內を逍遙せられ最ともなごやかなる光景を  
現はせり. 詳細なる記事は本會 50 年史に登載の  
豫定なり



第 6 回日本放射線醫學會總會

本月 13, 14 の兩日岡山醫科大學生化學講堂に於  
て開會す其の演題は次の如し

1. 赤外線放射が白血球の遊走機能並に核型に及ぼす影響に就て 山田正彦
  2. 超短波の白血球遊走機能並に核型に及ぼす影響に就て 山田正彦
  3. 「レ線」放射が試験管内白血球の核型に及ぼす影響に就て 山田正彦
  4. 「レ線」放射が白血球の遊走機能並に核型に及ぼす影響に就て 山田正彦
  5. 「トロトラス」注入による家兎筋肉「レ線」像 三宅太郎  
島田喜一
  6. 「オゾン」の生物學的研究補遺 高井五百治
  7. 家兎白血球内酵素に及ぼす「レ線」の作用 高井五百治
  8. 「レ線」並に脾臓抽出物質の家兎赤血球及び白血球に及ぼす影響 増倉善信
  9. 「レ線」放射の血液並に骨髓所見に及ぼす影響に就て 重藤文夫
  10. 「フェニールヒドラチン」貧血に對する放射線療法の実験的研究 重藤文夫
  11. Butter gelb による肝癌發生過程に於ける「レ線」並に紫外線の「アルギナーゼ」に及ぼす影響 川原久秀  
黄演煥  
安岡眞三
  12. 造癌性炭化水素 3,4「ベンツピレン」の注射による死因に關する實驗 倉元巖
  13. 「シャツテン」の生物學的的作用の研究 安岡三四郎
  14. 「アミノ酸」の生物學的研究(第2報) 廣井清
  15. 「レ線」生物學的研究補遺 万城目二三
  16. 雌性非妊成熟家兎腦下垂體の硬「レ線」放射による性「ホルモン」の生物學的影響(第2報) 野口好之
  17. 雌性非妊成熟家兎腦下垂體の硬「レ線」放射による性「ホルモン」の生物學的影響(第3報) 野口好之
  18. 「ラヂウム」の生物學的的作用(續報)特に「ラヂウムエマナチオン」崩解物質の生體內蓄積に關する實驗的研究 井上數雄
  19. 肋膜斜位撮影法(Schrägaufnahme)と其の應用 井上數雄
  20. 露卵を用ひたる「レ線」作用の研究 古賀良彦  
宮地韶太郎
  21. 集團検査法としての「レ線」間接撮影法 古賀良彦
  22. 胸部「レ線」寫眞に現はるる氣管影像 三宅太郎  
島田喜一
  23. 紫外線吸収「スペクトルム」より見たる紫外線照射の「ヒスタジン」及び「ヒスタミン」に及ぼす變化 岩佐健治  
立入弘
  24. 放射線治療經過より觀たるフツクス氏癌反應 龜田魁輔  
宮本重行
  25. 「レ線」作用上より觀たる赤血球の意義 長橋正道  
七種禮藏
  26. 「レ線」並に 2,3物質の「ツベルクリン,アレルギー」に及ぼす作用 七種禮藏  
廣井清  
長橋正道
  27. 過敏症と臟器酵素の消長に就て(續報) 松村良治
  28. 「紫」外線の過敏症に及ぼす影響 黄演煥
  29. 「レ線」の過敏症抑制機轉に就て 長橋正道
- ### 宿題報告
- 「レ線」放射並に 2,3の理學的療法の瓦斯代謝に及ぼす影響 平松博
  30. 「レ線」連續放射の家兎瓦斯代謝に及ぼす影響に就て 前田義雄
  31. 「レ線」分割放射の家兎瓦斯代謝に及ぼす影響に就て 前田義雄
  32. 「レ線」遷延放射の家兎瓦斯代謝に及ぼす影響に就て 前田義雄
  33. 施灸が家兎瓦斯代謝に及ぼす影響に關する研究 大西秀夫  
島田喜一
  34. 脊柱運動の「レントゲン」的研究 加藤俊男  
山林不二夫
  35. 生體心臟の廻轉に就て(承前) 加藤俊男



特別講演

各種熱の生物學的作用に就て

櫻井 勇太郎

36. 冷浴の血行に及ぼす影響に就て

有井 友清

37. 超短波透射による家兎瓦斯代謝の變動に就て

藤卷 時男

38. 赤線赤外線放射家兎の血清並に血液沈降成分注射の正常家兎血液像に及ぼす影響に就て

二之宮 千代

39. 網内系填塞動物の創傷治癒に及ぼす超短波電流の影響に就て (第1報)

岡 徹男

40. 各種疾患に於ける超短波療法の成績に就て (第1報)

山田 泰國  
石原 弘  
足立 弘  
永松 義光

41. 自家考案「ヂアテルミー」動性導子及び其の「デモンストラチオン」

大貫 公光

42. 電源電壓變動のX線強度に及ぼす影響に就て

鈴木 重光

43. X線發生装置に對する自動調整器の應用

鈴木 重光

44. X線管線係加熱電壓の補償方法に就て

關戸 信吉  
小原 誠

45. X線管に於ける「エレクトロン」の運動

松島 清智  
松本 徳  
岩崎 耕作

46. 最短波長の測定方法に關して

木岡 元雄  
平塚 喜雄  
原田 音次郎

47. 超短波による間腦刺戟照射法

第1報 月經困難症に對する應用に就て

井上 佐

48. 簡易子宮卵管造影法に就て

井上 佐

49. 肺「ヂストマ」の「レ線」診断の可能性に就て

三宅 壽

50. 喉頭部の「トモグラム」供覽

三宅 壽

51. 穿通性胃潰瘍を伴へる強直性脊椎關節炎の1例

原保郎  
平本秀雄

52. 内鮮人胸部「レ線」像に於ける播種性結核に就て

原 保郎

53. 肺門陰影の體位並に呼吸性變化に就て

宮地 幸彦

54. 巨大肺泡擴張症

板津 三良

55. 集團身體検査に於ける胸部「レ線」検査成績

中村 徹

56. 胃腸「レ線」診断と壓痛點に就て

林 昌陸

57. 肺臟「エヒノコックス」の1例

瀬木 嘉一

58. 佐々木大貫打診板に依る心臟打診界及び「レ線」に依る心臟境界の比較に就て

大貫 公光

59. 肺結核「レ線」診断上に於ける2,3考察

大圖 實

60. 喀痰中に結核を證したる場合の小兒胸部「レ線」所見

渡邊 琢一

61. 肺腫瘍の臨牀的並に「レ線」的觀察

山田 泰國  
石原 義光  
永松 義光

62. 横膈膜下膿瘍の1例

國見 義郎

63. 移動性十二指腸の1例

竹本 庸夫

64. 癩癩者の「エンツェファログラフイー」

山本 莊一郎

宿題報告

「レントゲン」寫眞に關する實驗的研究

牧野 利三郎

65. 腸管憩室3例に就て

野口 好之

66. 食道粘膜「レリーフ」像に就て

玉本 正男

67. 膽囊の「レ線」診断に就て

菊地 耕一

68. 横膈膜「レラクサチオン」の2,3の所見

加藤 俊雄  
小宮 山信雄

指定演説

69. 戦傷者診療上必要なる「レントゲン」學の知識

清野 寛

70. 諸種惡性腫瘍「レ線」治療時に於ける赤血球沈降速度の消長に就て

福岡 善二郎  
玉本 正男

71. 慢性骨髓性白血病の「レントゲン」治療に関する統計的觀察  
馬場 駿 二  
倉 田 誠
72. 慢性白血病に対する「レ線」治療の効果  
入 交 忠 雄
73. 大なる壁癭を呈する胃潰瘍の「レ線」治療成績  
川 波 浩
74. 更年期苦訴の「レ線」療法  
堀 三 郎
75. 高血圧症の陰「イオン」療法  
後 藤 基 彰

### 宿題報告

- 「レ線」治療に於ける高電圧の問題  
古 賀 良 彦
76. 直腸癌の「レ線」治療成績  
山 口 聖 憲
77. 食道癌放射線治療の副作用  
岩 井 孝 義
78. 食道癌の放射線治療成績  
岩 井 孝 義

### 特別講演

- 蛍光及び蛍光材料、増感紙に就て  
射 和 三 郎
79. 胃腸神経症の「レ線」治療  
井 手 一 郎
80. 「レ線」を主とする「ハイネメヂン」氏病の治療成績  
諏 訪 信 吾  
立 入 弘  
古 川 清 夫
81. 「レントゲン」潰瘍の「ラドン」軟膏療法  
三 宅 壽  
塚 口 敏 郎
82. 結核性頸部淋巴腺炎の「レ線」治療  
山 田 喜 三
83. 「レ線」照射により著效を治めし脳腫瘍の1例  
谷 村 吉 三
84. 體腔管近接照射に依る皮膚癌治療の1例  
葛 城 一 徳
85. 尋常性白斑の「レ線」照射療法  
西 岡 時 雄  
諏 訪 信 吾
86. 子癩様發作に対する「レ線」治療  
永 田 義 淵  
水 口 秀 夫

87. 「リフシュツ」氏急性鉤輪潰瘍に対する體腔管照射治療例  
赤 松 金 四 郎
88. 子宮癌放射線療法後の直腸障碍に就て  
中 村 眞 太 郎
89. 子宮癌の放射線治療成績の統計的觀察  
中 村 眞 太 郎

### ◎愈よ大陸へ進出

岡山醫科大學では長期建設の國策に沿ひ先づ同大學細菌學教室が同仁會（支那各地に防疫、診療班派遣及び宣撫工作に従事してゐるもの）の國家的事業に参加、今同天津に新設される「防疫處」を同教室で引受け軍部と密接な連繫下に活動を起すことになつた

これは先ごろ醫大で開催された日本寄生蟲學會に出席した宮川傳研所長と細菌學教室鈴木稔教授との間に下話があり5月下旬鈴木教授が上京して松村興亞院文化部長、高木東大教授（北支防疫班長）をはじめ宮川氏、同仁會専務理事田邊軍醫中將等と懇談の結果具體化したもので同教室では初代處長として村上助教授を推し處員に吉野啓三、伊賀忠博、北村直次諸氏のほか技術員看護婦、事務員等18名を決定、6月10日ごろ先發隊として村上、伊賀兩氏が発し防疫處設置の諸準備にあたり同月下旬全員を派遣することになつてゐる

尙ほ同處の豫算は臨時費を除いて約80000圓が計上されてをり、爾後岡山醫大關係者によつて重要地天津を中心に防疫に、宣撫に其の効果を期待されてゐる

（昭和14年5月30日合同新聞）